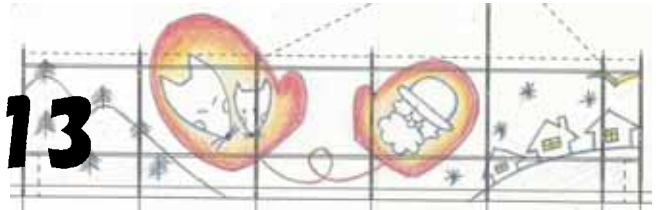


イルミネーション 2013



9月20日第1回イルミネーションプロジェクト会議が開催されました。出席者3人「えっこれだけ?」「3人で決めるの?」「仕方がない、今年は何を造りましょう」「テーマは?」「絵本は?」「絵本か…」ということで『絵本の世界』新美南吉生誕100年を記念して『手袋を買いに』がテーマです。まず、“狐の親子と手袋”“雪景色の中の町並み”に決めました。「どんなイメージで造りましょうか」下絵を書いて図面に起こします。いよいよ制作開始、毎週水・木・金と3日間作業を行いました。造り始めるとスタッフも増え「あぁ〜でもない」「こう〜でもない」で10月下旬にやっとの思いで出来上がりました。11月9日13時よりイルミネーション据え付けが行われ、約2畳程のパネル4枚を4〜5人掛かりで制作室から運び出しました。取り付け足場は予め設置されていましたが、取り付け用の針金を付け足す。針金は太くて固く儘ならないが、伸ばしたりねじりあげたりして横一直線に張られた。「もう少し高く、もうちょっと右に寄せて」「この足場は絵の邪魔になるね。移動させよう」と図面を確認しながらの指示、ハンマーの響く音、金網を切ったり張ったりの作業が続き、終わった頃には日が傾いていました。冬の日差しは傾くのが早い。土曜日の午後だったので、池の周りの芝生には幼児を連れた親子や子ども達が遊んでいました。「今、絵本の世界が広がったら大喜びだろうな」と思ったが、残念ながら電源の確保が出来ずその日の点灯は見送られました。11月16日の第1回目点灯式には市内の矢入さんが親子で参加されました。来場された方・親子連れの人・散歩中の人など足を止めて「かわいい」と見入っておられました。イルミネーションは来年の1月18日までalaの冬の夜空を飾ることでしょ。これから親子連れや子ども達がイルミネーションの絵本を見にalaを訪れてくれるのが楽しみです。



イルミネーションの全景



設置完了あとは通電



点灯式の矢入さん

完成!!きれい



手作りらんぷをつくろう!

12月14日に紙ねんどとLEDライトのキットでオリジナルのランプ作りワークショップが開催されます。終了後イルミネーションの点灯式に参加、星空の下でお披露目会は素敵な思い出になるはず。



水野政雄の世界



本当に水の中に入って
ゆくみたいです

キリンの群れ
うまくできてますね



8月18日（日）会場に足を踏み入れたとたん、目に飛び込んできたのは、水牛の群れやキリンの集まり、シマウマの集団走行、ミーアキャットの日向ぼっこなどのジオラマ。まるでアフリカの動物保護地区を空から見ているようです。水野政雄先生のアートの世界です。紙コップにハサミを入れ、顔や足やしっぽなどを作り込み、絵の具で色を付けて出来上がった動物はまるで動きだすくらいリアルさです。来場された方は「いろんな動物の群れを見ていると、紙コップであることを忘れてしまいそうです」「生き生きとして、まるで動き出しそうね」「木の緑は紙皿、建物は紙コップ、ロケットもあり宇宙飛行士も居たわよ」と親子で発見しながら楽しそうに見て回っていました。“水野ワールド”に引き込まれてしまっています。この日のワークショップは3回。水野先生は最初に「紙コップや紙皿は一度使うと捨てられてしまいますね。これで何か作り出せないものか」と考えた“もったいない精神”から生まれた作品です」と穏やかに話されながら、細長い紙に目を付け、その紙をしごいて机の上におき、ストローで息を吹きかけるとシャクトリ虫の出来上がりー。パッパと作ってまるでマジシャンです。ワークショップに参加の子どもたちも紙をもらって作ります。ふうーとストローで吹く子ども達の前でシャクトリ虫が這い出します。「おもしろーい」と歓声が上がります。その後、紙コップでウサギを作ったり、紙皿でオウムを作ったり「面白い！家でお母さんと一緒に作ってみるよ」「夏休みの工作ができたよ！」と満面の



笑みです。サバンナアート展は8月17日～25日まで美術ロフトで催され、およそ1300人の方が来場されました。この作品に触れ、身近なものでもアートになるということを教えられました。

ワークショップに参加の子どもたちも紙をもらって作ります。ふうーとストローで吹く子ども達の前でシャクトリ虫が這い出します。「おもしろーい」と歓声が上がります。その後、紙コップでウサギを作ったり、紙皿でオウムを作ったり「面白い！家でお母さんと一緒に作ってみるよ」「夏休みの工作ができたよ！」と満面の



シャクトリ虫できた!! 楽しい



文化工房かりや 視察対応

8月11日(日)刈谷市総合文化センター『アイリス』にて、ボランティア活動を行っている『文化工房かりや』から23名の方が視察研修に来られました。文化工房かりやはホールでの公演やミニコンサートの自主企画・会館自主事業のフロント業務に取り組んでおられます。規模としては小さいようですが、取り組む姿勢は同じだと感じました。お互いの活動発表後、小劇場にてアールユースシアター“青いとり”を観劇しました。つづいて質疑応答をし、最後に館内を見学・記念撮影をしました。今回視察を通して、alaクルーズの活動が多くの方に理解して頂き、また私たちも他館の取り組みなど知る機会ができて、本当に勉強になりました。多くの方が注目をする、可児市文化創造センターにおいて、alaクルーズの一員として活動できることの幸せと、意義を感じとることが出来ました。(K)



こまきホロニックの会 視察対応

10月7日(月)『こまきホロニックの会』から23名の方が視察研修に来られました。10時から映像シアターで篠田理事の開会挨拶後、桜井事務局長は「開館以来クルーズには協力いただいております」と述べられました。続いて澤野理事長がスクリーンを使いパワーポイントでalaクルーズの組織などを説明しました。「財団とは車の両輪で…クルーズは独立した組織で…」平成8年にクルーズの前身である市民懇話会から始まり、今日に至るクルーズの生い立ちなどを説明されました。最後に質疑応答の時間を設け「フロントスタッフの制服やマニュアルはどうしているのか」「イベントの際はどのように集客しているのか」などの質問がありました。最後に代表の方が「この研修を参考にし今後の活動に生かしていきたいと思います。今日はありがとうございました」と述べられました。そのあと一行は会館内を見学し終了しました。



フォローアップ研修を終えて



10月5日(土)星乃もと子氏をお迎えして、クルーズの新人を含めた21名と財団4名の参加でフォローアップ研修が行われました。午前中は主劇場を使って遅れ客対応を中心に行ないました。遅れ客対応の一連の仕事の中で、座席表の前の立ち位置、指の使い方、また場内ではペンライト、チケットの持ち方、お返りするタイミングなど細かいところまで教えて頂きました。昼食は、カテリーナでランチをしながらの交流会となりました。午後からは実際にそれぞれのポジションにつき「秋の螢」の7回目のフロント業務を行いました。遅れ客対応解除後エントランス係と場内監視係を残し他の人は開場時案内及びチケットもぎりなどの反省を行い、研修を終了しました。今回は1日の研修でしたが、初心に帰って基本をしっかり身に付けることの大切さを再確認しました。(M)



『まつもと市民芸術館』にホールボランティアが活動していることを館長から紹介を受け、視察・交流しました。ここは、2004年(平成16年)に竣工し、芸術監督に俳優・演出家の串田和美氏を迎えました。日本最大級の音楽イベント“サイトウ・キネン・フェスティバル松本”の主要会場です。今年開館10周年を迎えました。各事業に参加するボランティアの会も、スタッフの不足、組織体制やルールの未整備など解決すべき課題を抱えているようです。活動内容は、主催事業の折に、チケットのもぎり、客席案内、クロークなどを担当しています。現在20歳～70歳、82名の会員が在籍されています。最後に、楽日を迎えた公演“スカパン(串田和美主演)”のフロント活動(星乃先生の指導を受けていました)を見学しました。研修終了後、“まちなか観光ボランティア”の案内で市内を散策してきました。蔵のある通りなど見所のある街で、もう一度ゆっくり行きたいと思いました。(S)

まつもと市民芸術館の視察研修参加

『まつもと市民芸術館』にホールボランティアが活動していることを館長から紹介を受け、視察・交流しました。ここは、2004年(平成16年)に竣工し、芸術監督に俳優・演出家の串田和美氏を迎えました。日本最大級の音楽イベント“サイトウ・キネン・フェスティバル松本”の主要会場です。今年開館10周年を迎えました。



各事業に参加するボランティア

の会も、スタッフの不足、組織体制やルールの未整備など解決すべき課題を抱えているようです。活動内容は、主催事業の折に、チケットのもぎり、客席案内、クロークなどを担当しています。現在20歳～70歳、82名の会員が在籍されています。最後に、楽日を迎えた公演“スカパン(串田和美主演)”のフロント活動(星乃先生の指導を受けていました)を見学しました。研修終了後、“まちなか観光ボランティア”の案内で市内を散策してきました。蔵のある通りなど見所のある街で、もう一度ゆっくり行きたいと思いました。(S)

《alaクルーズギャラリー展示 心にひびくものたち14》 “木のもの”

2014年2月26日(水)～3月3日(月)

只今展示物選定・企画中

ワークショップルーム洋室

木で作った器、楽器ほか

70～80点出品予定

編集後記

散歩銀座 ウォーキングに心地良い季節になった。家の近くに田んぼと水路に沿って細長く走る格好の散歩道があり、夕刻になるとそこは近くに住む人たちが交差するウォーキングロードになる。私は密かに散歩銀座と呼んでいる。私を含め歩いている人の多くは定年を過ぎた人と思えるが、中にはリハビリ中の人や妊婦さん、若いランナーにも出会う。「こんにちは」と声を掛け合う名前も知らない人たちの、それぞれの人生を刻んだ体が人生の終りを迎えるまで元気に過ごしたいと歩き続けている。明日もウォーキング日和になると良いね。(N)



alaクルーズ事務局 TEL/FAX:0574-61-3414

<http://www.kpac.or.jp/alacrews/>

Mail: ala-crews@kpac.or.jp



戻る